



「大隈重信と佐賀」知られざる大隈 その⑤

令和3年1月10日(日)、大隈重信侯100回忌を迎えるにあたり、5回にわたって大隈重信侯に関する紹介文を連載します。

大隈が字を書かなかつたと言うことは今ではよく知られた話ですが、それでは大隈が書いた字は1つも無いかというと、正式に大隈の字であることが認められるものが2つ有ります。ひとつは16、17歳の時に書いた送別の漢詩で、もうひとつは大隈が伯爵になった時の覚書です。それ以外にもたまに「大隈の手紙がある」などと言われますが、比べる字がないので本物かどうか分かりません。

は江戸の旗本三枝七四郎の娘で綾子といえます。この人とは生涯添い遂げますが、2人の間には子どもができませんでした。

大隈の書いた漢詩および覚書の複製は、大隈重信記念館で見ることが出来ます。また、最初の奥さんである美登について、以前は記念館に資料がありませんでしたが、現在展示をしておりますので、ぜひ大隈重信記念館にご来館ください。

(大隈重信記念館館長

江口直明)

大隈は生涯2度結婚して、最初は鹿島出身の佐賀藩士江副氏の娘美登で、大隈の唯一の子ども熊子はこの人との子です。美登は大隈が江戸に出て行くとき、江戸には住めないと身を引いたようです。2番目の妻



▲大隈綾子肖像写真